

令和元年8月発行（第19号）

ウォーキング パトロール隊通信



ウォーキングパトロール隊
事務局

安曇野市豊科5704番地2
安曇野警察署 生活安全課内
0263-72-0110

ライポくん安心メールにご登録を！

～ もっと身近に！ よりタイムリーに！ ～

長野県警察では、県内で発生した声かけ事案や防犯等に関する情報を「ライポくん安心メール」として配信していますが、この度、より有益な情報を配信するためリニューアルいたしました。



これまでは「子供安全情報」・「女性安全情報」・「防犯情報」の3種類でしたが、「交通安全情報」・「防災情報」・「お知らせ情報」を加えた6種類に拡大し、幅広く皆様の自主防犯活動などに有益な情報を配信してまいります。

また、これまで警察本部からメール配信を行っていましたが、身近な情報をよりタイムリーに地域の皆様へ提供するため、各警察署からの配信も開始いたします。子供や女性を犯罪の被害から守るため、ご自身が犯罪の被害にあわないために、是非、お役立てください。

- | | |
|----------|---|
| ☆ 子供安全情報 | 18歳以下の子供に対する声かけ事案、性犯罪等の発生・検挙解決情報 |
| ☆ 女性安全情報 | 19歳以上の女性に対する声かけ事案、性犯罪等の発生等・検挙解決情報 |
| ☆ 防犯情報 | 街頭犯罪等の身近な犯罪、特殊詐欺の前兆事案、刃物等使用の凶悪犯罪等の発生情報、有害鳥獣等の出没情報、行方不明者情報、その他防犯活動・防犯パトロールに有益な情報 |
| ☆ 交通安全情報 | 交通事故等の発生情報、交通安全に関する情報等 |
| ☆ 防災情報 | 台風、大雨、地震等の災害に関する情報等 |
| ☆ お知らせ情報 | 採用情報、講習会開催情報、広報重点事項等に関する一般情報等 |

登録は、長野県警察ホームページにアクセスして、利用規約をお読みになってから手続きをお願いします。

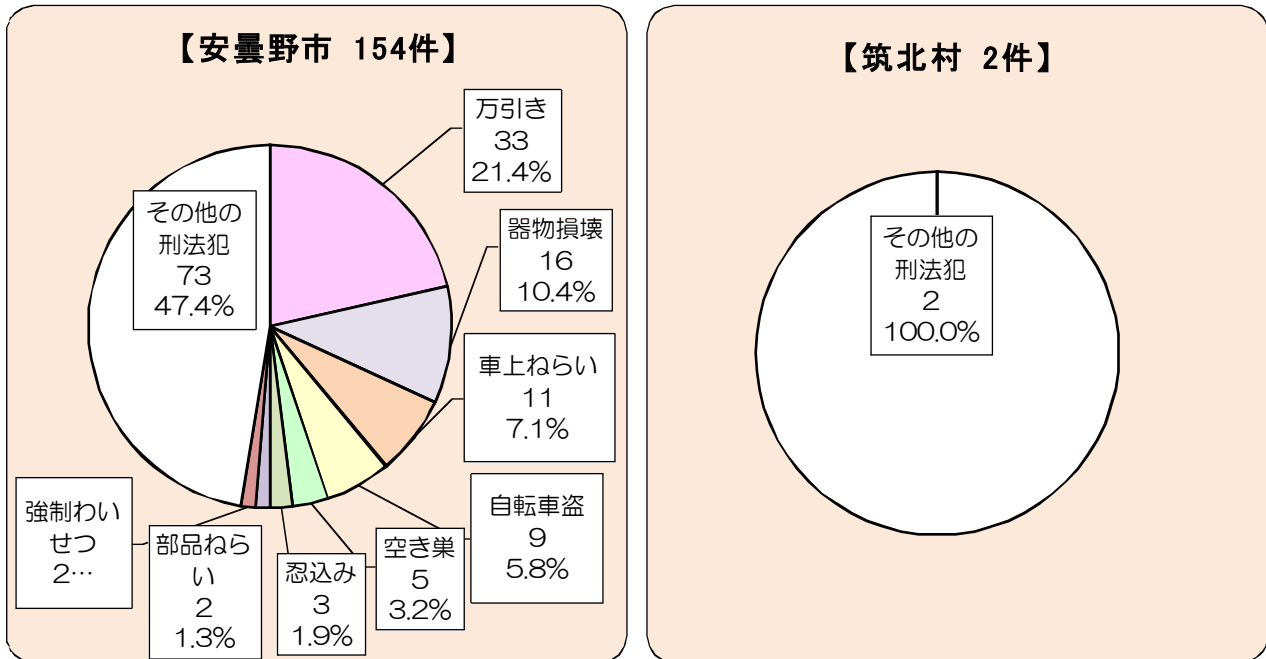
☆ 長野県警察ホームページ ☆
<https://www.pref.nagano.lg.jp/police/>



長野県警察シンボルマスコット
ライポくん

市村別刑法犯認知件数(6月末現在暫定値)

安曇野警察署管内の令和元年6月末現在の刑法犯（交通関係を除く）は、156件で市村別状況は下記のとおりです。



(麻績村、生坂村の発生はありません。)

隊員数242名になりました！ 「啓発隊」は88名に！

8月16日現在のウォーキングパトロール隊の隊員数は、242名になりました。年度初めの継続確認調査で、体調等の理由によりお辞めになった方も多かったのですが、新規に加入される方も多くいらっしゃいます。回覧板での募集以外にも、実際に活動されている皆様からご紹介していただくことも多く、ウォーキングパトロール隊の輪が広がっていることを実感しています。

引き続き隊員を募集していますので、ご家族やお知り合いの方などに声をかけていただき、「ウォーキングパトロール隊」の活動をより広めていただければと思います。よろしくお願いいたします。

また、年度初めに募集しました「啓発隊」は、88名の方にご協力いただけることになりました。啓発活動時にはご協力をお願いします。



「割れ窓理論」ご存じですか？

ひとつの落書きを放置したことで、次の落書きを生む。
1台の自転車を放置したことで、更なる放置自転車が増える。1個のポイ捨てが、多くの不法投棄を招く……。

最初のひとつを放置したことで「何をやってもかまわない」「捨ててもかまわない」という無秩序が生まれ、犯罪が起こりやすくなります。これが「割れ窓理論」です。



《ニューヨークの奇跡》

ニューヨーク市は、かつて、4時間に1件の割合で殺人事件が発生するなど治安が極めて悪い所でしたが、1994年に当選したジュリアーニ市長が思い切った犯罪抑止策を打ち出した結果、治安が見事に回復しました。

その犯罪抑止策は、地下鉄の犯罪抑止策から立証されたもので、ブロークン・ウィンドウズ理論に基づくものです。それは「徹底した落書き消し」と「軽犯罪の徹底した取締り」です。強盗等の地下鉄犯罪で乗客減に悩んでいたニューヨークの地下鉄が犯罪学者であるジョージ・ケリングの助言により取り組みました。

まず、地下鉄街の落書きを徹底して消したところ、3年後に犯罪が減少しました。続いて無賃乗車や飲酒による迷惑行為等の軽犯罪を徹底して取り締まったところ、2年後に凶悪犯罪が3分の1までに減少したのです。

ジュリアーニ市長はこの地下鉄の成果に習い、警察官を増員したほか、街中の落書きという落書きを自治体職員や警察官等に徹底的に消させるとともに、落書き行為や歩行者の信号無視、空き缶のポイ捨てなどの軽犯罪の徹底した取締りをさせたのです。

その結果、5年後には凶悪犯罪がやはり3分の1まで減少し、治安の回復とともに転出していた市民も戻ってきて現在の繁栄をもたらしたのです。

《ブロークン・ウィンドウズ理論》

ニューヨークの奇跡をもたらした犯罪抑止策の基本となっているのは、「小さな犯罪こそが大きな犯罪を引き起こす引き金となる。つまり、小さな犯罪が発生すると、そこから別の犯罪が発生する。」というブロークン・ウィンドウズ理論です。

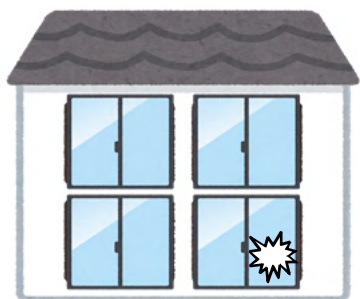
カリフォルニアで心理学者が実験をしました。車を路上に放置し、ナンバーをはずし、ボンネットを開けておきましたが、何の変化も起きませんでした。そこで、フロントガラスをハンマーで叩き割って放置したところ、数十分もしないうちにある親子がバッテリーをはずして持ち去り、その後24時間以内にタイヤやドアなどの部品が次々と持ち去られ、あっという間に、車は無残な姿になってしまいました。

みんなで つくろう 安心の街

これは「罪悪感の薄れから、自分だけではないという意識が普段では行わない行動を起こす。」という心理が働いた結果です。たとえば、自転車で出かけて「駐輪禁止」と張り紙がある場所では、他に1台も停められていないときは止めようとしませんが、他にも違反した自転車が多数停められているときは停めてしまうことがあります。これは、「他の人もやっているから構わない」というように罪悪感が薄れてしまうからです。



このような心理が働くことを「**ブローケン・ウィンドウズ理論**（割れた窓理論・破れ窓理論）」といいます。



割られた窓が放置される

↓（誰も気にしていない）



窓を割ることへの罪悪感が薄れる

↓

その他の窓も割られるようになる

↓（この場所は誰も関心がない）



犯罪の温床になる

↓

重大な犯罪が起こる可能性が高くなる



ゴミを拾う、落書きを消す、自転車置き場を整理する等の地域の環境美化は、防犯にも効果的です。

安全で安心して暮らすことができる地域づくりのためには、私達一人ひとりが小さいことから始めることが大切ではないでしょうか。